



【『仏教開花—花開く仏教文化—』を開催しています】

奈良に都がつくられた前後の時期、松阪市内にもたくさんのお寺が造られていたことがわかっています。特に嬉野地域では、奈良時代のお寺の跡が6カ所もみついています。さらに、合併で津市になった一志町の2カ所も含めると、旧一志郡の限られた範囲に8カ所もお寺が建っていたことになるのです。当時、わが国の中心であった奈良地方以外で、これほどお寺の跡がまとまって見つかることはめずらしいといわれています。

では、なぜこのように多くのお寺が建てられたのでしょうか？宝塚古墳が造られた時代は、地域を支配していた豪族たちが、自分たちの力の大きさを示すため古墳を造っていました。ところが、時代が進んで「大がかりな墓を造ることはひかえなさい」といった命令が出されるようになると、古墳の代わりに、この頃大陸から伝わってきた新しい文化「仏教」の象徴であるお寺を競って造り、自分たちの力の大きさを示すようになったのです。

しかし、お寺を造るためにはたくさんのお金や労働力が必要になります。ひょっとすると古墳を造ることより大変だったかもしれません。嬉野を中心とした松阪地域で、このようにたくさんのお寺が造られたということは、当時、この地域にそれだけの力をもった豪族たちがいたことをあらわしていると考えられます。

さて、はにわ館第2展示室では『仏教開花』というテーマで、松阪市内のお寺の発掘調査でみつかった瓦や「せん仏（焼き物の仏像）」などの展示をおこなっています。ふだんあまり見ることのできない貴重な資料をたくさん紹介していますので、この機会にぜひご覧ください。

(担当)



第2展示室の様子

【涼しさを見る、さわやかさを聴く・・・】

夏山の 遠きこずえの 涼しさを 野中の水の 緑にぞみる

ただかつより
武田勝頼

みわたすかぎり青々とした夏の山、はるか遠くにみえる木々のみきや枝の先までもり上がる若葉、いかにも涼しげなありさまを、すみきった野中の水の緑に映してみることであるよ。みだまま感じたままをかざらないでよむ姿勢に、すがすがしさがただよいます。

夏本番の季節です。強烈な太陽の照りかえしのなかでも、文化財センターのギャラリーやはにわ館のまわりでは、涼しさを演出してくれるたくさんの材料にことかきません。ふりそそぐ日の光をやわらかくうけとめどこまでもつづくみどりの芝生、広場のまんなかに大きな木かげをつくるシンボルツリーのけやき、枝をゆらし葉ずれの音をのこしてふきぬける風、小川のせせらぎや小鳥のさえずりなどが私たちに明らかにする世界、そこで、「涼しさを見る、さわやかさを聴く」というような見たり聴いたりする力をいっしょに使った、涼しさ体験をしてはいかがですか。暑い暑いといっているだけではみえてこない、すてきな風景がそこに広がっているかもしれません。

文化財センターがある鈴の森公園の一角は、樹木や池や水路など自然のすがたがのこる公園の風景にどれくらい涼しさ、さわやかさ、すがすがしさなどを見て・聴いて・においを嗅いで・触れて・味わって感じられるかという、私たち人間にかつてはそなわっていたといわれる、五感（視・聴・嗅・触・味の五つの感覚）をバラバラにしないでそれらのいくつかをくみ合せ、まわりの世界を生き生きと感じとることができた「力」をもう一度、発見できる場所かもしれません。

* 武田 勝頼 戦国時代の武将 (所長)



【文化財センター はにわ館・ギャラリー 8月の催し物予定】

【はにわ館】 入館料 100円 (18歳以下無料。) 月曜日、祝日の翌日は休館です。

- 第1展示室 ・常設展「宝塚古墳の謎」
- 第2展示室 ・前期特別展「仏教開花～花開く仏教文化」～9/26(日)

【ギャラリー】 入場無料

- 第1ギャラリー ・三重県立博物館移動展『水の恵みとゆくえ くらしと自然の関わりから考えてみよう』～8/22(日)
- ・岸野雅樹「平成デカダンス第1回グループ『集』」8/25(水)～8/29(日)*29日は15時まで
- ・奥伊勢フォトクラブ「第8回華火写真展」8/31(火)～9/8(水)*31日は正午から8日は16時まで
- 第2・3ギャラリー ・「第67回松阪美術協会展」8/22(日)～29(日)*29日は16時まで



バーコード読み取り
(文化財センター情報)

開館時間：9時から17時(入館は16時30分まで)

【発行】松阪市文化財センター 【電話】0598-26-7330 【サイト】<http://www.city.matsusaka.mie.jp/>